

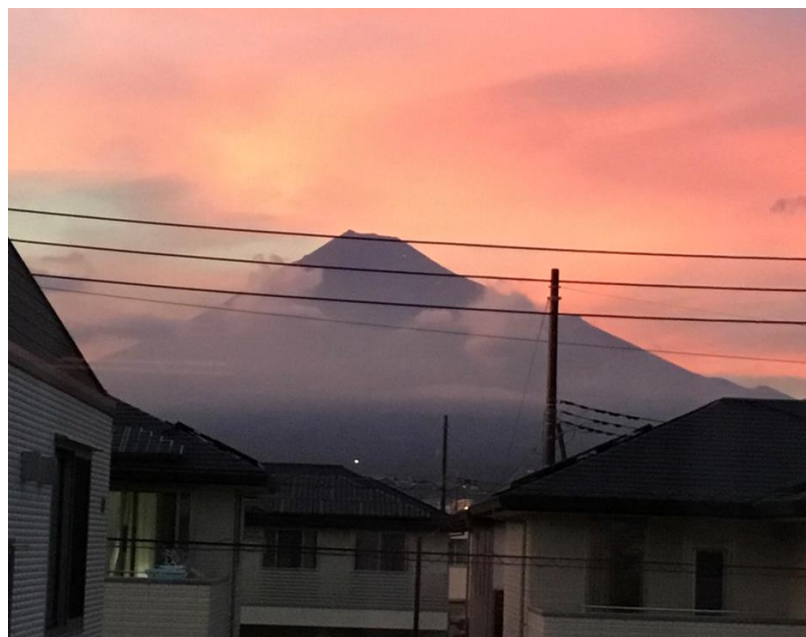
2021年10月2日

関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 栃木



すべての人に平和を - 多文化共生とSDGsの推進 -

双日総合研究所 相談役
米国IRS非課税NPO法人 CEPEX 理事長
北海道大学新渡戸カレッジ フェロー
長崎大学経済学部 客員教授
多田幸雄



自宅から見る富士山の夕焼け



田子の浦港漁協食堂のシラス丼



小長井 市長



図：富士市の位置

2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
	8.2	指標: 市内総生産	
	8.3	現在 (2018 年 3 月):	2030 年:
	9.2	1 兆 1,689 億円	1 兆 2,075 億円
	9.4	指標: CNFを活用し、製品化した市内事業所数	
	9.5	現在 (2018 年 3 月):	2030 年:
		1 社	12 社
	17.17	指標: 民間から資金調達を行い実行したプロジェクトの件数	
		現在 (2020 年 3 月):	2030 年:
		0 件	18 件

2019 年にノーベル化学賞を受賞された旭化成(株)名誉フェローの吉野彰氏が、10 年間、市内に拠点を置き、リチウムイオン電池の開発に携わるなど、本市には研究・開発が盛んに行われる土壌が広がっている。現在は、植物由来の新素材であるCNF(セルロースナノファイバー)に関連した研究・開発が企業及び関係機関により進められており、CNF関連新産業の一大集積地の形成を目指している。

(社会)

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
	4.1	指標: SDGsの達成に向け、行動宣言をしている市民の数	
	4.3	現在 (2020 年 3 月):	2030 年:
	17.17	0 人	1,000 人
			

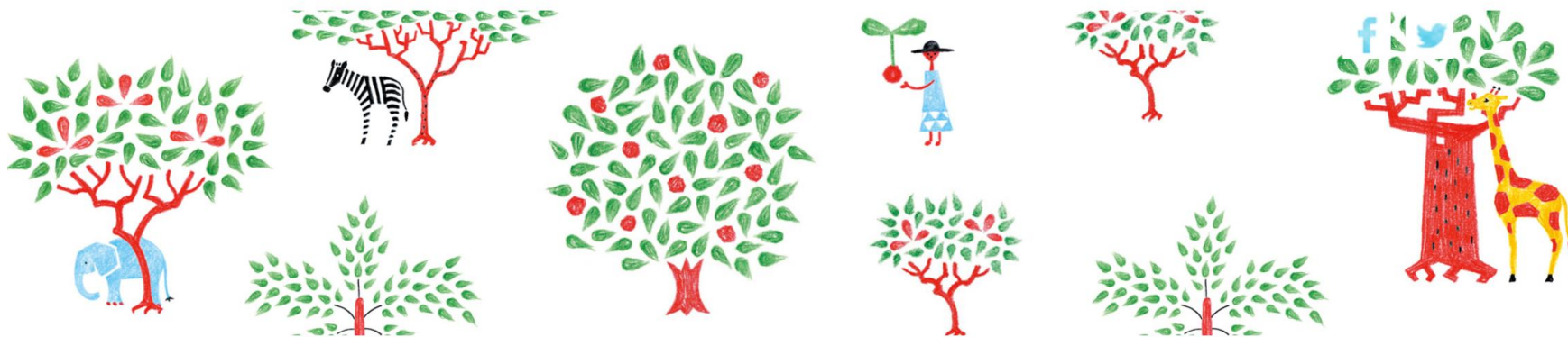
2015年に国連採択され、2030年を念頭の 「SDGs/持続可能な開発目標」



2015年以降の社会変化：

- * 採択前から進んでいたグローバル化で移民・難民が急増
- * 途上国の南北問題に加え、先進国内でも格差が拡大
(2016年にBREXITでEU分裂、トランプ氏の登場は先進国内の分断の象徴)
- * 「資産」は領土や地下資源から、先端技術と情報に変化
(米中競争は知財と先端技術を巡る争い、一方でGAFAやNGOの興隆)
- * 2020年は百年に一度のパンデミック発生、世界的パラダイムシフトの元年になり、SGDsは後退？ YES/NO

今でも通用する、限られた資源・資産の有効活用法



CONCEPT OF "MOTTAINAI"

MOTTAINAIについて



環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したケニア人女性、
ワンガリ・マータイさん。

マータイさんが、2005年の来日の際に感銘を受けたのが
「もったいない」という日本語でした。

環境 3R + Respect = もったいない

Reduce（ゴミ削減）、Reuse（再利用）、Recycle（再資源化）という
環境活動の3Rをたった一言で表せるだけでなく、
かけがえのない地球資源に対する
Respect(尊敬の念)が込められている言葉、「もったいない」。

持続可能な平和な多文化共生社会とは？



三内丸山遺跡: 紀元前2000年頃まで、
一万年以上続いた縄文時代の集落跡



PNG中央高地の小さな村にて

* 人口700万人に対し、1000を
越える部族、800を超える言語



Think Globally, Act Locally
グローバルに考え、地域で
行動。そのカギはジェンダー



第3回長崎地域国際化フォーラムを開催しました

2月11日と12日に、経済学部において「第3回長崎地域国際化フォーラム」を開催しました。

これは、経済同友会知日派・親日派拡大委員会の協力を得て、長崎大学経済学部と同学部の同窓会組織である公益社団法人瓊林会が主催したもので、行政、教育及び経済など各界からの参加を仰いで開催したものです。

具体的には、これまでの2回のフォーラムの成果を踏まえつつ「国際化、海外人材の活用を通じた地域の活性化、地方創生」をより一層推進するための課題や対応策について、セクター横断的な討論を行い、観光、第一次産業、加工品などによる地域活性化など長崎が有する様々な資源や事例を取り上げることで、より具体的かつ戦略的な検討を行いました。

各プログラムでは、須齋正幸副学部長と多田幸雄双日総合研究所代表取締役社長（経済同友会知日派・親日派拡大委員会委員長・長崎大学客員教授）の進行により、地域国際化及び地域活性化について、活発かつ多角的な議論を行いました。



第1部「先進的な英語教育の推進と地域国際化」

- ・馬場豊子 氏（長崎市教育長）
- ・山口千樹 氏（長崎県教育庁参事）
- ・野口市太郎氏（五島市長）
- ・園田裕史 氏（大村市長）

第2部「先進的な英語教育の推進と地域国際化・活性化への取組み」

- ・植村 哲 氏（総務省自治行政局国際室長）
- ・荒井忠行 氏（文部科学省初等中等教育局国際教育課課長補佐）

第3部「経済界から見た地域活性化への取組み」

- ・河西 宏 氏（長崎経済研究所専務取締役）
- ・多田幸雄 氏（経済同友会 知日派・親日派拡大委員会委員長）

2019年度 新渡戸カレッジ
新渡戸学 多田フェローゼミの記録

2045年のSDGsに向けて ～平和ゲームを考える～



2020年4月



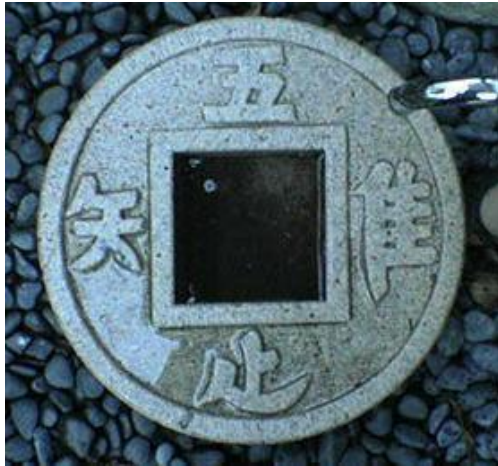
協力：北海道立教育研究所 北海道教育庁 学校教育局



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

Nitobe College

“吾唯足知”：何事も中庸が肝心



2030年が目標年度のSDGsの「そのさき」に向けて、自然科学と社会科学を両輪とするフレームワークから、全てのステークホルダーが共存できる社会環境の実現を目指し、柔軟で突飛な発想で、多文化共生とSDGsの推進を考えよう！